

日韓トンネル通信

編集/発行特定非営利活動法人
日韓トンネル研究会本部事務局：東京都港区麻布台1-1-20
〒106-0041 麻布台ユニハウス513
TEL 03-3589-4188 FAX 03-5570-1634
E-mail office@jk-tunnel.or.jp

九州支部：0120-09-2188

(報 告)ルート検討委員会が開かれました。

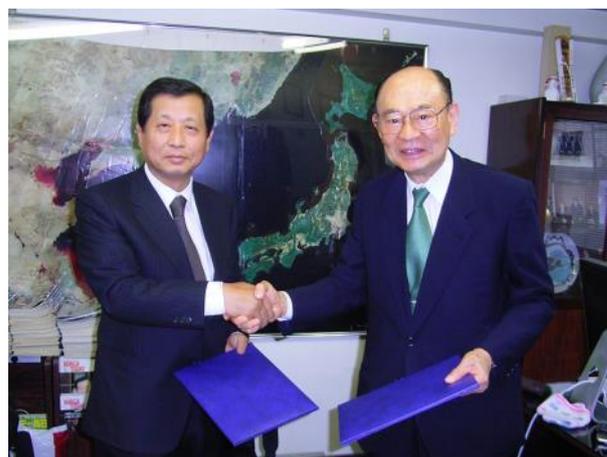
日韓トンネルのルートを検討する「ルート検討委員会」の第2回委員会が去る2月27日(水)、第3回委員会が4月7日(月)に開かれた。この委員会は当研究会が任意団体として発足した昭和58年以来行ってきた各種調査結果に加え、一昨年実施した唐津・壱岐・対馬などでの現地調査結果、さらにはユーロトンネル視察などの現地調査および資料調査結果などを踏まえ、日韓トンネルの使用方法を考慮したルート案を検討している。

(報 告)ボスポラス海峡海底トンネル工事現場を視察しました。

去る5月10日(土)から17日(土)にかけて、トルコ共和国のボスポラス海峡で行われている海底トンネル工事現場などを視察した(詳細は後述)。



ボスポラス海峡海底トンネル工事現場



合意書に調印した野澤会長(右)と李龍欽共同会長

(報 告)日韓トンネルの調査研究に関する業務協力合意書の調印式を行いました。

去る5月28日(水)、当会は韓国の社団法人韓日トンネル研究会(ソ・イテク(徐義澤)、イ・ヨンフム(李龍欽)共同会長)との間で、「日韓海底トンネル技術および情報交流など業務協力合意書」を交わした。社団法人韓日トンネル研究会は日韓トンネルに関心を持つ釜山の有志の集まりで、今年1月29日に釜山市から設立許可書の交付を受けて活動を開始した。今後、当会と共同でルートの検討や各種調査活動などが行われることになる。

(報 告)東京本部の第5回通常総会が行われました。

東京本部の第5回通常総会が、5月29日(木)、アルカディア市ヶ谷私学会館で開催された。冒頭、野澤会長は、前年、韓国で3回に



わたり開かれた日韓トンネルのシンポジウムについて、「真摯な議論により日韓トンネルに関する諸問題や論点が出揃った」と評価した。また、前日行った合意書の調印式にふれ、「当会と韓国側諸団体と共同研究する枠組みができたので、今年度は日韓トンネルに関する具体的な諸問題について共同研究し、その成果を出す年である」と結んだ。

韓国側からは来賓として、ソウルにある韓日トンネル技術研究会のソン・ベクチョン（成百詮）会長、社団法人韓日海底トンネル研究院のパク・キョンブ（朴慶夫）理事長の2名が、釜山からは社団法人韓日トンネル研究会のイ・ヨンフム（李龍欽）共同会長ら5名が参加した。韓国側を代表してイ・ヨンフム（李龍欽）共同会長は、「今後、日韓トンネル研究会と協力して調査研究を進めて行きたい」と挨拶した。

議事では野澤会長が議長に選出され、まず事務局から平成19年度の事業報告として、①シンポジウム「日韓海底トンネルと釜山の選択」に参加、②釜山～巨済島連結道路の建設工事現場を視察、③展示会

「DEMEX2007」に出展、④壱岐市・対馬市の各種団体を表敬訪問、⑤日韓海底トンネル専門学会セミナーに参加、⑥展示会「CIVIL EXPO 2007」に出展、⑦ルート検討委員会、⑧ボスポラス海峡海底トンネル工事現場の視察について報告があった。次に平成19年度の事業会計収支決算の報告があり承認された。平成20年度事業計画は、①各種国際シンポジウムや展示会への参加、②ルート案の検討と関連データ収集、③韓国側団体との共同研究、④当会ホームページの充実、⑤刊行紙の発行、を審議し承認された。次に平成20年度事業会計収支予算書案を審議し承認された。役員の変更では東京本部の顧問として、①社団法人韓日トンネル研究会のイ・ヨンフム（李龍欽）共同会長、②謝克昌（東京農業大学教授）が、また理事として河野博忠（筑波大学名誉教授）の就任が承認された。

議事終了後、視察報告として野澤三三会長が「トルコ・ボスポラス海峡トンネル工事現場の視察」と題し約30分間講演した。

【講演内容】

5月10日(土)～17日(土)にかけて当
会役員ら数名でトルコ共和国のボスポラス海
峡に建設中の海底トンネルを視察した。ボス
ポラス海峡は黒海とマルマラ海を結ぶ南北約
30kmの海峡で、そこに沈埋・シールド・開
削の各工法を組み合わせた総延長13558m、
海底部分1387mのトンネルを建設中である。
施主はトルコ共和国で、大成建設を含む共同
企業体が施工している。着工が2004年で工期
は約5年、工費約1000億円である。最大深度
60mに達する世界一深い沈埋トンネルであ
り、海流が最大4ノットで下層には最大2
ノットに達する逆流があるなど設計・施工に
多くの困難を含んでいる。いろいろな工法が
混在しており、沈埋トンネルとシールドトン
ネルの接合部などにも工夫がこらされ、今後、
日韓トンネル計画を進める上で大いに参考に
なる。

(訃報) 当会九州支部の吉田信夫支部長 がご逝去されました。謹んでお知らせいた します。

吉田信夫支部長は、去る2月23日、肝硬
変のため逝去した。73歳。



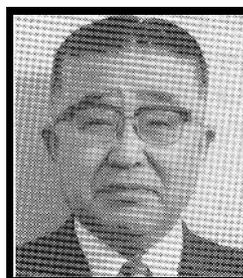
故吉田信夫氏

吉田信夫支部長は九州大
学大学院修士課程修了後、
運輸省港湾局を経て福岡大
学工学部教授となり、交通
工学や土質工学などに関す
る研究を積み重ね、平成8
年には運輸大臣より「交通
文化賞」を受賞した。

吉田信夫支部長は平成5年ごろから日韓ト
ンネルの経済波及効果の研究を開始し、九州
支部の役員として活躍するほか、平成15年
に副支部長、平成17年からは支部長として
当会九州支部をリードしてきた。

(訃報) 当会九州支部の山崎達雄副支部 長がご逝去されました。謹んでお知らせいた します。

山崎達雄副支部長は、去る4月27日、心
筋梗塞のため逝去した。89歳。



故山崎達雄氏

山崎達雄副支部長は当会
が任意団体として発足した
昭和58年当初から四半世
紀もの間、九州支部の副支
部長として、研究会を指導
してきた。九州大学工学部
教授在籍当時から蓄積した北部九州の地質情
報をもとに、旧第2部会では唐津・壱岐・対
馬を頻りに踏査し、設計施工法の研究に不可
欠な地質図面を作成するなど各種情報を集大成
した。

(訃報) 当会東京本部の大塚茂副会長が ご逝去されました。謹んでお知らせいたしま す。

大塚茂副会長は、去る5月20日、がんの
ため逝去した。82歳。



故大塚茂氏

大塚茂副会長は東京大学
を卒業後、通産省の審議
官、在米大使館一等書記官
などを歴任し、工業デザイ
ンや各種知的財産権保護に

関する要職を務め、最近は太平洋経済協力会議日本委員会 で活躍していた。

当会が任意団体として発足した昭和58年当初から旧第1部会で日韓トンネルの政治・経済的側面を研究し、昭和59年に監査、同60年に理事、平成17年に副会長に就任し

た。昨年は日韓トンネルに関する国際的シンポジウムなどに出席していた。

(記事紹介) 日韓トンネル計画に関連する新聞・雑誌掲載記事を紹介します。今回は次の1点です。

・日刊工業新聞 2008年5月26日

日刊工業新聞

29

2008年(平成20年)5月26日 月曜日

私はこうみる

日韓トンネル構想



米州開発銀行
アジア事務所
事業研究情報統括
尹 敏鎬氏

ユン・ミンホ 81年漢陽大工業化学卒。83年東工大院修士修了。88年米ジョージタウン大大学院博士修了。韓国東西証券東京支店長などを経て07年3月から現職。国際金融情報センター客員研究員。ソウル出身。53歳。

韓の100年の問題、対話は難しい。こうい
は解決できると思う。こうい
う韓国のシグナルを日
韓国はいま実利を追
求する李明博政権が生
まれ、日韓のシャトル
外交も実現し、ぎくし
やくしていた日韓関係

実現で100年の問題解決

がよくなる好機にあ
る。韓国の日韓議員連
盟の会長に李明博大統
領が最も信頼をおく実
兄を据えたのも日韓関
係をよくしたいという
姿勢の表れ。盧武鉉前
大統領時代の会長は日
本語を話すことができ
なかった。通訳が入っ
ての対話は、どうして
も率直な腹を割っての

になるのではないか
といった意識を持つ。
事実、今年2月中旬
に京畿道の金文洙知事
が韓中トンネル構想を
表明した。ルートはい
くつかあって、中国の
山東半島の威海と、国
際空港のある仁川、平
潭などが候補に挙がっ
ている。これらは昔か
ら往来のあったルート
だ。金知事は次期大統
領候補に名前が挙がる
人物。中国側はまだ反
応していないが、そん
な力を持つ人が、日本
ではなく中国を見てい
るといふことだ。
日韓の首脳会談を契
機に、中断していた自
由貿易協定(FTA)交
渉の再開が決まった。
6月から事前の予
備交渉が始まる。韓国
はリーダーがやると決
めれば物事は決まり進
む。FTA交渉の鍵を
握るのは日本。
李大統領は日本の先
端部品産業の韓国投資
や技術移転を要求して
いる。トンネル技術は
日本が世界的にリード
する。日韓のトンネル
事業は巨大金融プロシ
ェクトと最先端の技術
が必修。事業を通じて
日韓の経済や人的、技
術交流と移転は海の下
で自然に解決できる。
日韓トンネルは、日韓
の関係強化に大いに役
立つ。4月に駐日大使
に赴任した権哲賢
氏は釜山出身で国会議
員時代には日韓トンネ
ルを強力に主唱した人
物でもある。いま改め
て検討する価値がある
のではないか。

国際・中国・アジア